

Happy がつくれる看護師を育てる。

▶ **STANCE** 本物の看護を目指す姿勢

心を動かす看護  
人権を尊重した看護

▶ **SPIRIT** 弘善会の精神

救える命は全力で救う  
救えた命は全力で支える

▶ **SKILL** 専門領域の看護実践能力

看護師に必要な基本姿勢と態度  
看護実践における管理・教育



看護部能力開発の考え方

弘善会矢木脳神経外科病院の看護部では3つの“S”(STANCE・SPIRIT・SKILL)を備えた人材を育てます。大地に根を張った3本の柱に沿って看護の経験を積みながらどのようなスペシャリストをめざすのかを選択し、決めた道を歩んでいきます。

人を大切にする 愛のある看護・教育・職場づくりを目指したい

当院は「ここに来てよかった」と思ってもらえることを目指して看護を実践しています。そのような看護の基本は『信頼』です。その人を思い尊重するといった、その人そのものに向き合う姿勢が基盤であり「知識・技術・心・感性」が必要です。今何を求められているのか、患者さまの心の声を聴き、看護師として患者さま一人ひとりに、何ができるのか、何をすればいいのかを考えられる看護師を育てたいと考えています。患者さまのことを知ろうとする心、その声を感じ取る感性、必要な看護を見出せる知識、実践できる技術、これらを養う教育を行っていきます。常に「患者さまのために」「看護とは」をスタッフ全員で問い続けたいと思います。

だからこそ「人」を大切にする職場、愛のある看護・教育・関係づくりを目指します。相手のために、相手の期待を超える気持ちと行動を心がけて、ホスピタリティを大切にしていきたいです。また、チーム医療の中では、看護の専門職としての自覚と責任をもって役割を果たせるよう支援します。

患者さま・職員の満足のために、相手を思いやり、尊重する組織を背景にして、「できない」ではなくチャレンジし続けるのが当院の看護師たちだと思っています。「ここに来てよかった」と思ってもらえる看護の実践を通じて、看護の素晴らしさや楽しさを感じ、看護に誇りをもって、一人ひとりが魅力のある看護師になって輝いてもらいたいと思います。



看護部長  
梅田 麻由



矢木脳神経外科病院  
看護部

医療法人弘善会 矢木脳神経外科病院 看護部

〒537-0011 大阪市東成区東今里2-12-13  
大阪メトロ(地下鉄) 今里筋線・中央線  
緑橋駅 又は 深江橋駅 下車 徒歩10分



看護部  
Instagram



矢木脳神経外科病院  
ホームページ

TEL. 06-6743-7004 (人事課 直通) FAX. 06-6743-7006 (人事課 直通)

はじめの一步から次の一步へ

～新人看護師の振り返りと2年目の決意～



患者さんの笑顔が、私の成長の原動力です。

梶原 萌々花 SCU病棟

新人看護師としての成長

正直、いっぱいいっぱい1年でした。コロナの影響で実習経験が少なく、患者さんと話すことにも緊張していましたが、不安を与えないよう自分からベッドサイドへ行くことを心がけ、今では自然に会話ができるようになりました。技術面でも「今日はこの技術を習得する」と目標を立てて先輩に相談しながら経験を重ね、多くの技術を習得しました。

脳卒中患者の再発予防への取り組み

SCUではパンフレットや動画を使って退院後の生活支援を行い、患者さんから「禁酒を続けている」「生活習慣が改善された」といった報告を受けるたびに、自分の関わりが患者さんのためになっているんだ！と実感しやりがいを感じることができました。

2年目としての成長とチームワーク

後輩と協力しながら日々目標を立て、共に成長を目指しています。不安もある中で、チームとして前向きに取り組んでいます。



患者さんとともに歩んだ1年、回復を支える喜び

藤森 英里子 SCU病棟→手術室

初めての看護経験と学びの連続

1年間あっという間でした。SCU病棟に配属された最初の1年は、日々の観察、処置、生活援助、入院対応、夜勤など初めての業務が多く、めまぐるしい中で多くの学びを得ました。

急性期患者との関わりと精神面への気づき

脳卒中の超急性期患者が多く入院するSCUでは、身体面のケアだけでなく、精神的なサポートの重要性を実感。緊急入院・ボディイメージの変化など、突然の出来事にショックや混乱する患者さんに対して、どのような看護やコミュニケーションを図れば良いか、自分の対応が正しかったのか振り返ることもたくさんありました。

回復の瞬間に感じるやりがい

この1年で一番やりがいを感じたのは、患者さんの回復過程を見られた時です。麻痺や言葉の出にくさの症状が改善し、退院間近には歩いて笑顔で話されているのを見たとき、言葉にならない喜びを感じました。看護師としての使命感とやりがいを改めて実感しました。

新たなステージでの挑戦と意気込み

現在は手術室へ異動し、術中の看護を学ぶ日々。1年目に学んだ1つひとつの経験をバネにして、今後もより質の高い看護を提供できるよう努力を続けています。

先輩の支えで築いた自信、看護師としての第一歩

木本 結貴 急性期病棟

1年目の気づきと成長のきっかけ

1年を振り返ると、本当に目まぐるしく過ぎていったと感じます。入職当初は先輩に頼る場面が多かったものの「自分の考えを持って報告・相談する」ことを意識するようになり、主体性が育まれました。厳しくも温かく見守ってくださる先輩方の存在が大きな支えとなりました。

先輩からの励ましと自信への変化

心が折れそうな場面で、先輩から「自分も同じ経験をした」との言葉を受け、自分だけが苦しんでいるわけではないと気づいたことが大きな励みになりました。経験を積み自分も先輩のようになれるかもしれないという自信につながりました。

看護技術の習得と“慣れ”への意識

1年目では、看護技術の習得をメインに学ぶ事ができました。とにかく技術の練習を重ねて、観察点や注意することを教わりました。毎日のようにする援助ですが、慣れになってはいけないことを学びました。学んだことを今は不安なく実践する事が出来ています。

2年目の目標と看護観の深化

これからの2年目は、ケアを行いながら、患者の声に耳を傾けて苦痛や不安を取り除けるような看護をすることを意識していきたいと思っています。



患者さんの笑顔が教えてくれた、看護師としての喜び

坂本 菜摘 急性期病棟

急性期病棟での戸惑いと支え

脳神経外科や整形外科の患者さんが入院する急性期病棟へ配属され、最初の半年は慣れることに一杯でした。同じチームの先輩看護師の方が優しく教えてくださり、疲れていない？大丈夫？などと定期的に声をかけてくださったおかげで、私のことをきちんと見てもらっているんだなと実感することができ、頼りやすい環境で学ぶことが出来ました。

看護師としてのやりがいと指針の発見

1年目を終えて、自分が看護した患者さんが転棟後病棟を1人で歩かれていたり、笑顔で退院される姿を見たり、また退院した患者さんが外来で笑顔で声をかけてくれたりするのがすごく嬉しく、ここで看護師を続けてよかったと思えるようになりました。退院後の生活まで見据えた看護の重要性にも気づき「自分が後悔しない看護をすること」が自身の大切な指針となりました。

退院支援への意識と今後の課題

2年目に入り、患者さんの入院前情報やADLの把握に加え、サマリーなどの書類業務にも主体的に取り組むことを課題としています。退院後の生活に寄り添えるよう、情報収集と看護の質向上に日々努めています。



法人理念：医療・福祉活動を通して地域社会に貢献することにより 社会的責任を果たすことが私たちの使命です。

看護部理念：私たちは、病院理念に基づき専門職としての自覚と責任を持ち、地域の人々から信頼され、親しまれ、選ばれる看護部を目指します。



病院概要

病床数 92床

- ・SCU(脳卒中ケアユニット 3:1 看護 12床)
- ・急性期病棟(アキュート病棟 40床)
- ・HCU(ハイケアユニット 4:1 看護 4床)
- ・地域包括ケア病棟(プラチナ病棟 36床)

診療科目

脳神経外科/整形外科/総合診療科/内科/脳神経内科/もの忘れ外来/リハビリテーション科/放射線科

矢木脳神経外科病院 看護師のありがたい姿！ 私たちは職員のHAPPYが患者様やご家族のHAPPYをつくると考えています

☆患者様やご家族の心理的側面に配慮している

- ・脳神経外科、整形外科は突然の発症で障害を残す可能性が高いという特徴がある
- ・突然の出来事で不安や精神的苦痛が大きく、寄り添いケアすることが必要
- ・疾患の特殊性からADLの制限があり、気を使って入院生活を送る方が多い

☆主体性を持って、学び、考え、行動できる

- ・最先端の医療を提供する専門病院であり、最新の専門的な知識が必要
- ・急性期医療を提供する病院で、私たちは命と生活を護る役割を担っている
- ・受け身ではなく、自ら学び、考え、行動しようとする姿勢が大切

☆協調性を持って多職種や同僚と協働できる

- ・職員全員と顔見知りになれる規模の病院だから、みんなの力で患者様を救いたい
- ・共に理解しあい、助け合って医療の質を高めた
- ・お互いに、相手のことを尊重する姿勢を大事にしたい

新人看護師のインタビュー詳細はこちら⇒  
(看護部サイト 新人看護師のあゆみ)



矢木脳神経外科病院  
看護部サイトはこちら⇒

